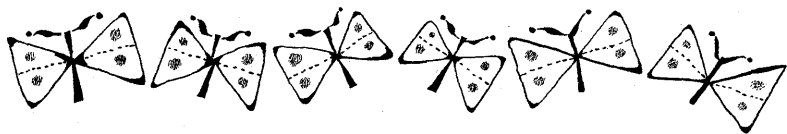


巻頭言

手足の動きのしなやかさ

牧野 カツコ

自宅から程近いところに、最近歯科大学の立派なビルが立ち、診療が始まった。長年通
い慣れた歯科医には、引越した後もずっと通っていたのだが、近くて新しい歯科大学
の病院の方についてみることにした。内部は非常に広い治療室で、最先端の医療機器がず
らりと並び、治療の椅子や設備も快適である。ところが、担当の若い男性医師の治療の間
中、口の中は不快感がずっと続いた。通いなれていた医院の年配の歯科医と違って、どう
も手さばきが悪いのである。乱暴というわけではないが、道具の細かな動かし方がうまく
ない。ああ、この人は不器用なのだと、悟って少し納得することにした。



それにしても菌の治療ぐらいならまだよいが、医療の最先端に行く、心臓外科や脳外科などの手術だったら、どうなのだろう。最新の医療機器であっても、今や、かなり細やかな手先の技能が必要なのではないか、と心配になった。

いま、子どもたちはナイフで鉛筆を削り、芯の先をきれいに尖らせるなどという仕事をするかもしれない。マツチを擦るのを怖いという子どももいる。こうした手先を動かす経験の少ない若者が医者になって、日本は、本当に大丈夫なのだろうか。

子どもたちの遊びから、日本の伝統的な遊びが消えて久しい。女の子だったら、お手玉、あやとり、おはじき、折り紙、着せ替え人形。男の子だったら、メンコ、ペーゴマ、そして竹とんぼなどを作って遊んだものだ。いずれも、手先、指先を使うことが多い遊びだ。

折り紙遊びは、今、幼稚園ではどのくらい取り入れられているのだろうか。外国に少し滞在する時には、私はいつも和風模様の大小の折り紙を持っていく。ちよつとした御札やおみやげに、折り鶴やつの箱を折って見せて上げると、多くの人たちは感激してくれる。子どもたちの遊びであるというとさらに驚く。

折り紙は、折り方の順序を間違えらうまく作れない。①物事の順序を知る。②折り目が正しいことの大切さを知る、と聞いた。折りたたむ、開く、といったことから、ものごとの様態が一気に変わることもおもしろさもある。立体と平面の空間構成のおもしろさ



を知ったり、鶴や奴などの作品から、物事の抽象や表象の認識も育てたりしているのではないか。伝統遊びの紙一枚の何という、奥深さ。折り鶴の羽の先を折るときに必要な注意深さ、手先の細やかな動きが、私は好きだ。ピシッと美しく折り上げることができたときの満足感は何とも言われなく心地よい。

もう三十年以上も前に出版されたものだが、山形の農村で、綴り方教育の指導をされた国分一太郎氏の『しなやかさというたからもの』（晶文社 一九七三）という本がある。

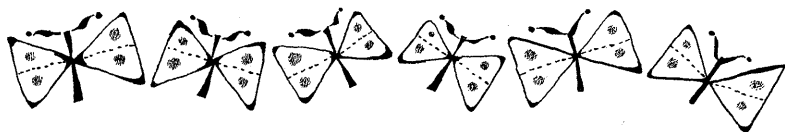
むかし、こどもに「あそび」があった。むかし、こどもに「かせぎ」があった。

むかし、こどもに「用」があった。そして、むかし、こどもに「かざり」があった。

むかし、むかしと繰り返すのは、いまに批判をもつからである。いまに不満と不安を感じずるからである。

という書き出しで始まるこの本は、子どもたちが、あそびと手伝い（かせぎ）のなかで、いかに手や足を働かせ、体と心の「しなやかさ」を育てていたかを述べていく。国分氏は、「こどもの遊びは、自然とともにあった。こどもの体とともにあった。そして、中間とともにあった。遊びはこどもを、すこやかにした。かしこくした。しなやかにした。」という。

セリやツクシを摘む、レンゲで首飾りをあむ、シブ柿の皮をむく、動物の手綱をさばく、等々、遊びや稼ぎの中で経験する「キル」「コギル」「ブッタギル」「むく」「うなう」



「あむ」などの動作が、いかに子ども達の指先をしなやかにし、筋肉や神経、からだや心のしなやかさを育てていたかを語っている。

「自然との調和、自然とのたたかい、いのちあるものをそだてること、自然の中にあるものを採取すること、手足と体をうごかして働くこと、この中に、人間が賢くなることへの接近があった」という文章も味わい深い。

彼は三十年前に、子どもたちが仕事から切り離され、「それよりは勉強」と、親からけしかけられ続けていることの不幸を嘆いている。その後今日まで、日本の子どもたちをとりまく遊び、かせぎ、用、かざりの世界は、いっそう不幸を深めてしまっている。今さら、むかしの農村のくらしを取り戻そうと言うことではない。しかし、自然そのものである子ども達は、自然の中で、手を使い、からだを使い、神経を使い、筋肉を使う活動ができるだけたくさん、経験しなければならぬと思う。これは、あえて大人達がその環境と機会を用意しなければ、今子ども達は、一人では全く経験できなくなってしまうているのだ。

のばす、ひねる、折る、曲げる、ひっぱる、ちぎる、たたく、なげる、などの活動をしながらか、子どもが、しなやかにかしくなっていくことは、本当に、社会のたからものが創られていくことである。幼稚園で子どもが思いきり遊べるということの意味は、かけがえのなく大きいものと思う。